



うそ電話詐欺防犯情報

警察官になりすました「オレオレ詐欺」類似事案に注意!!

『警察署の警察官になりすました者（犯人）』など、複数の者から電話が架かってきたのち、来訪した者（犯人）に、隙をみて、暗証番号（メモ）とキャッシュカードが入った封筒を盗まれ、そのカードで「現金を引き出されてしまった」といった、『新たな手口』の被害が発生しています。

この種の事案は、特に高齢者を対象にする傾向にありますので、下記の事例を参考に、被害に遭わないように注意してください。



【被害事例】

犯人は、被害者宅の電話に、「**※※警察署の〇〇です**」と言って、

- ・ 詐欺グループ〇〇人を捕まえたところ、あなたの名前が載った資料を持っていた。
- ・ あなたの口座への不正アクセスを確認したので、その口座を凍結した。
- ・ 手続のため、△△という担当者を向かわせるので、キャッシュカードを準備してください。

等と電話があり、その後、被害者宅に担当者△△を名乗る者が訪れ、

- ・ 手続のため、この封筒に、暗証番号を書いたメモとキャッシュカードを入れてください。封印（契印）が必要ですので、封筒に押印してください。
- ・ この封筒は、連絡があるまで開封せず、大切に保管してください。

等と言われました。

被害者が印鑑を取りに離れたすきに、犯人は封筒をすり替え、キャッシュカードの入っていない封筒に押印させ被害者に手渡しました。

その後、犯人から騙し取ったキャッシュカードを使用され、ATMで複数回に渡って現金を引き出されました。



この、「警察官になりすましたオレオレ詐欺類似事案」は、犯人グループが短期間のうちに、一つの地域（又はいくつかの地域）に集中して電話をかける傾向にあります。

今後も、地域を変えて集中的に電話をかけてくるおそれがありますので、注意を怠らないようにしましょう。

～ 本当に警察からの電話だったのか確認したい ～

ナンバーディスプレイ以外に、かけてきた相手の電話番号を確認する方法があります。

電話を切ったあと、電話番号「136」に電話（有料）すると、相手の電話番号を音声で確認できます。（ただし、非通知、公衆電話、国際電話などの場合は、電話番号は分かりません。）

【注意点】

- 警察、金融機関など、公的機関職員を名乗る相手から電話がきても、安易に信用せず、「部署」、「氏名」、「代表電話番号」等を確認すること。
- 他人に、キャッシュカードを渡したり、暗証番号を教えないこと。（暗証番号を教えてしまうと、簡単にお金を引き出されてしまいます。）
- 電話では、家族構成、取引銀行、口座番号、預貯金残高など「個人に関する情報」は、安易に教えないこと。
- 不審（不安）に思ったら、一人で判断せず、家族や警察などに相談すること。などを心掛け、被害に遭わないように注意しましょう。

